

教育目標: ○ 自ら学び、よく考える ○ 進んで協力し、他人を思いやる ○ 心身ともにたくましく、最後までやりぬく

めざす学校像: ○ 生徒が主体的に学び活動する学校 ○ 教職員が協働して教育活動を創造していく学校 ○ 保護者や地域社会から信頼される学校

めざす児童・生徒像: ○ 自分の夢に向かって意欲的に学ぶ生徒 ○ 他人のために労を惜しまない心豊かな生徒 ○ 強い意志と自信をもち、たくましく生きる生徒

めざす教師像: ○ 教育に対する熱意と使命感に富む教師 ○ 一人一人の良さや可能性を引き出せる教師 ○ 研修意欲に富み互いを高め合う教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	分析コメント	改善策
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
笑顔と誇り	互いに認め合い、高め合い、学びあうことで、思いやりと豊かな心を育み、ひとり一人が居場所と感じ、安心して成長できる集団を育成する。	自己肯定感を育て、居心地感を高めることで以下の改善を図る。 ①いじめ、不登校 ②多様性を認め合える集団作り ③「分三魂(誇り・団結・克服)」 ④心身の健康	教育相談機能の強化と、一人一人の自尊感情を高めるコンプリメントを推進する。	3		1		関係調査項目の平均高評価が69.7%であった。教育相談機能の充実が進んでおり、丁寧な対応もしているが、自尊感情の高まりには至っていない。	引き続きコンプリメントを推進し、達成感や充実感を体感できる機会を意図的に設定していく。
			面談や毎学期のアセスメントを通して困り感に寄り添い、丁寧に対応する。	-		4		三者面談やアセスメントを生徒理解や指導に役立てている。不登校や気になる生徒への声掛けも全校体制で実施している。93.8%の高評価であった。	いじめ、不登校の原因となる人間関係や学習も含めた個々の困り感に寄り添う指導を継続していく。
			学校行事や生徒会活動、部活動を充実させ、異年齢交流や多様性を認める活動を推進する。	-		4		これまで以上に生徒の思いを組み入れた活動が展開できている。異年齢交流は、感染症予防のために十分ではない。88.9%の高評価であった。	合唱祭や生徒会活動、部活動での異年齢交流を進めていく。
確かで豊かな学力	分かる授業、興味・関心のわく授業の実現に努め、確かで豊かな学力の定着を図る。	基礎学力の充実に加え、協働的な学びやICTを活用した学びにより、主体的な学習者を育成する。	ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりと補習教室等での個に応じた指導を行う。	3		4		91%の高評価であり、丁寧な学習指導が進められている。定期考査前や夏季休業中の個別指導もほぼ目標通り実施できている。	個別最適な学びと協働的な学びの本質をしっかりと確認しながら、バランスよく指導し、主体的学習者育成を目指す。
			ICTや言語活動を活用し、思考力・判断力・表現力の伸長と知識だけでなく学力を育成する。	3		4		81.6%の高評価であった。ICTの活用は、授業者や教科により差が見られる。言語活動の推進は、意識して行うことができている。	ICTを教員活用するだけでなく、生徒の活用の幅を広げるような授業展開を研究していく。
未来へ開かれた教育活動	地域や多様な教育資源を活用し、生徒の社会貢献や奉仕への意識を高める。	本校でのESD(SDGs)推進を行い、校区へも広げる。保護者や外部人材を活用した多様な教育活動を工夫し、主体的に他者や地域・社会へ貢献する態度を育成する。	防災を中心とした地域連携を推進し、生徒の社会貢献への意識を高める。	-		-		市総合防災訓練会場として、地域防災会との連携を深めている。避難訓練等は予定通り実施できているが、連携は2学期以降の予定である。	
			外部人材との協働や、異文化理解を深める取り組みを実施する。	-		-		2学期には職業講話、3学期には留学生交流等が予定されている。	
			学校だより等やブログでの積極的な情報発信を行う。	-		-		高評価を得ている。特にブログで生徒の姿を伝えることは、コロナ禍にあっては、有効な伝達手段となっている。	